

乳幼児への薬の飲ませ方

薬の効果を十分に発揮させ、副作用をできるだけ抑えるために、乳幼児には薬を指示通り正しく服用してもらいたいものですが、なかなか思うように薬を与えられず苦労することも多いと思います。ここでは内服薬の投与方法の例を紹介します。

(1) ミルクに混ぜる

ミルクに混ぜる場合は、飲み残しがあると薬の1回量が与えられなくなるので、まず少量のミルクに薬を溶かして与えた後に残りのミルクを授乳するようにしてください。また、味覚等が発達してくると、薬によるミルクの味や臭いの変化に敏感になり、ミルク嫌いになってしまうこともあるので注意が必要です。

(2) 口腔内に塗りつける

少量の散剤の場合には、数滴の水でペースト状に練り、乳幼児の上あごや頬の内側に塗りつけた後、ミルク等を飲ませて流し込むのも有効な方法です。水の代わりにガムシロップやジャム等を用いて練ってもよいでしょう。

* 1歳未満の乳児には、乳児ボツリヌス症の危険があるため、「ハチミツ」は使わないでください。(乳児ボツリヌス症:経口的に摂取されたボツリヌス菌芽胞が腸管内で毒素を産生し、全身筋力低下などの症状を現す)

(3) スプーンやスポイトを用いて与える

散剤に少量のぬるま湯を加えてシロップ状にし、スプーンやスポイトを用いてなるべく口の奥に少しずつ流し込みます。泣いている時に無理に流し込むと誤って気道に入ってしまうこともありますので、落ち着くのを待って根気よく与えましょう。

* 当院薬剤部では、先曲がりのスポイトも用意していますので、お気軽に窓口で申し出ください。

(4) 飲み物や食べ物に混ぜる

離乳食が始まった幼児には、牛乳、ジュース、ヨーグルト、プリン、アイスクリーム等好きな物に薬を混ぜて与えてもかまいません。ただ、混ぜるものによってはかえって苦味が強調されたり、薬の効果に影響を及ぼす場合もありますので注意が必要です。

- * 薬を飲みやすくするための「薬服用ゼリー」も市販されています。
- * クラリスロマイシンやジスロマック等一部の抗生剤では、酸味の強いジュースや乳酸菌飲料で苦味が増すことがあります。
- * 抗生剤のミノマイシンは牛乳やヨーグルトで吸収が低下してしまいます。
- * 緑茶、コーヒー、紅茶、コーラ等に含まれるカフェインの影響で、気管支拡張剤のテオドールの副作用が増強されたり、抗けいれんや鎮静に用いるセルシンの効果が弱まったりすることがあります。
- * グレープフルーツジュースは抗てんかん薬のカルバマゼピン等、一部の薬剤の作用を増強することがあります。この影響は長く続くため、薬の服用中はグレープフルーツジュースの飲用をできるだけ避けましょう。

<くすりの保管方法>

お薬(散剤・錠剤)は直射日光の当たらない涼しい場所に保管してください。空き缶やチャック付きポリ袋に乾燥剤とともに入れておく方法もよいでしょう。